

油断

吉田 真人

丁度50年前の10月6日に中東で戦争が起きた。エジプト・シリア軍がイスラエルに攻撃を仕掛けたが、振り返りにあい敗北した。O A P E C (アラブ石油輸出国機構) はイスラエル支持国への原油輸出禁止と価格引き上げ(3\$/バレルから12\$/へ)を表明。これが第1次石油ショックである。

日本では、石油の絶対的不足を恐れ、多くの国民がトイレ紙等の買い占めに狂奔し、スーパーの空になった陳列棚が、連日TVで強調された。

当時、米国会社とのJVで世界初の合成パルプなるものの開発営業を担当しており、殆ど売れず四苦八苦していた。しかし神風が吹いた。O A P E Cの宣言と共に在庫が一掃できた。しかし、翌春のある日、四国の販売二次店から強面の電話を受けた。「とんでもないものを買わされた。使い道がない。引き取れ!さもないと乗り込むぞ!」という。問題があれば一次店に言えと突破ね、一次店には話をつけるように依頼し、その後乗り込まれずにすんだ。

何とも異常な時代であったが、世界の石油生産はその年も翌年も前年比増加していた。

さて現下はグリーンフレーション(グリーン⇨反化石燃料、フレーション⇨インフレーション)の時代である。ロシアのウクライナ侵略やイスラエルとハマスの戦乱がこれに輪を掛けている。

グリーン化が時代の要請だとして、多くの資源会社が投資抑制を迫られた。株主総会でESG重視の役員3名が選任されたエクソン、オランダの裁判所からCO2排出削減促進を命じられたシェル。又、世界銀行グループや欧州投資銀行は化石燃料への投融資を停止した。これでは世界の化石燃料産出量は先細りとなる。

最近はこの行き過ぎを反省する動きも出てきた。英国はガソリン車の販売禁止開始時期を繰り延べ、エクソンはシェルオイル大手企業を買収し増産に踏み切る等。減産傾向に歯止めがかけられるかも知れない。

しかし中東情勢は不明だし、やっぱりトイレ紙を買いだめしておこう、と考えている方は誰?

(2023年10月26日)